

今週（11月7日から11月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、オファーサイドの運用ニーズが旺盛な一方で、積み期間が終盤に入ってきた事で、ビッドサイドには調達額を調整する動きが多く見られた。加重平均レートは、7日に▲0.054%から始まり、10日には▲0.066%となり、日を追う毎に低下する展開となった。11日は、今積み期間最後の週末3日積みとなったが、大きな変化は見られず、前日と横這いから僅かに低下した水準での取引が中心となった。

ターム物は、今積み期内物となる1W程度の期間を中心に、▲0.063～▲0.06%での出合いが散見されたものの、オファーとビッドでレート目線にやや乖離があり、全体としては低調であった。

日銀当座預金残高は、国債買入による増加や国庫短期証券(6M物)の発行超過による減少など、一時的な増減は見られたものの、週を通して490兆円台前半で落ち着いた推移となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.075%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～154回、10年352～368回、20年175～182回、30年65～76回、40年10～15回などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、9日に行われた6M物の入札が、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調な推移となったが、入札結果を受けて、その後の6Mゾーンは軟調な展開となった。一方、3Mゾーンはカレント銘柄が買い進まれ堅調に推移する中、11日に行われた3M物の入札でも、小じっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットについても堅調に推移した。

8日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回り較差+0.012%、平均利回り較差+0.015%となり、前回(按分+0.012%、平均+0.014%)比で按分は横ばい、平均は上昇となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、建設・鉄鋼・その他金融等の業態で大型発行が見られたものの、週を通して案件に乏しいマーケットとなった。市場発行残高は、先週に引き続き26兆円台前半から半ばでの推移となった。発行レートについては、引き続き0%から若干のプラスレートでの出合いが中心となっているが、発行残高の少ない稀少銘柄では浅いマイナスレートでの出合いも見られた。一方で、3カ月超のロングターム物の案件では買いが入りにくく、目線を切り上げる動きも散見された。

10日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.001%、平均落札レート0.021%と、前回(按分0.001%・平均0.012%)比で按分は横ばい、平均は上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/7 (月)	27,527.64	0.250	147.02	△ 0.054	△ 0.085	4,909,300
11/8 (火)	27,872.11	0.250	146.50	△ 0.059	△ 0.085	4,906,300
11/9 (水)	27,716.43	0.250	145.72	△ 0.063	△ 0.085	4,921,200
11/10 (木)	27,446.10	0.245	146.33	△ 0.066	△ 0.087	4,903,200
11/11 (金)	28,263.57	0.235	142.45	△ 0.068	△ 0.084	4,901,400

来週（11月14日から11月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/14 (月)					
11/15 (火)	7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)	5Y 25,000億円 11/16発行	国有林野借入 793億円 11/25借入		10月の米生産者物価指数 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報
11/16 (水)	9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				10月の米小売売上高 10月の米鉱工業生産・設備稼働率 9月の米企業在庫 10月の英消費者物価指数
11/17 (木)	10月の貿易統計(財務省 8:50) 9月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 11/21発行	20Y 12,000億円 11/18発行	交付税借入 13,000億円 11/30借入	10月の米住宅着工件数 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値
11/18 (金)	10月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 60,000億円 11/21発行			10月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/14 (月)	700	▲ 2,900	▲ 2,200	CP買入 国債補充	▲ 200 12,400		12,200	10,000	源泉所得税揚げ 社会保障費等 TB3M発行▲60,000償還56,000 流動性供給▲5,000 交付税借入▲13,000償還13,000
11/15 (火)	▲ 1,000	▲ 1,500	▲ 2,500	CP買入		4,000	4,000	1,500	個人向け3・5・10Y発行▲2200 3・5Y償還500
11/16 (水)	▲ 1,000	▲ 28,000	▲ 29,000				0	▲ 29,000	労働保険料揚げ 5Y発行▲25,000
11/17 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
11/18 (金)	▲ 500	▲ 9,000	▲ 9,500	被災地支援	▲ 200		▲ 200	▲ 9,700	20Y発行▲12,000 交付税借入▲13,000償還13,000
週間合計	▲ 2,800	▲ 40,400	▲ 43,200	—	12,000	4,000	16,000	▲ 27,200	

11/14は日銀予想、11/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となるなか、調達に目途を付けた先も多く、レート水準は引き続き低位での推移が見込まれる。新積み期間となる16日以降は、レート目線が定まり辛く、調達サイドに慎重な姿勢を取る先が多くなる事が想定される。債券レポGC O/N物は、週半ばに積み期間が切り替わるものの、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続き▲0.085～▲0.075%程度の水準で推移する事が見込まれる。短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札実施が予定されている。また、15日に実施が予想される短国買入オペは、1,000～5,000億円程度が見込まれる。CP市場は、五十日にあたる18日発行が控えており、発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、15日に7-9月期のGDP 1次速報、16日に9月の機械受注統計、18日に10月の全国消費者物価指数、海外では、15日に7-9月期のユーロ圏GDP2次速報、16日に10月の米小売売上高、17日に10月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。